

会議録

会議の名称	平成20年度 第1回西東京市子ども福祉審議会
開催日時	平成20年5月15日(木曜日) 13時から15時まで
開催場所	田無庁舎102会議室
出席者	(委員) 森田会長、猪原委員、神山委員、吉瀬委員、清水委員、阿委員、栗原委員、松島委員 (事務局・職員) 子育て支援部長 二谷、子育て支援課長 森下、保育課長 大久保、児童青少年課長 齋藤、子ども家庭支援センター長 西谷、事務局 (子育て支援課調整係 萩原、倉本、矢部)
議題	1 審議 (1) 子どもの権利に関する条例の策定について (子どもの権利に関する意識アンケート調査について) 2 報告 (1) 平成20年度の審議会予定案件について (2) 北原学童クラブ 委託の評価について (3) 下保谷児童館・福祉会館及び(仮称)ひばりが丘団地内公益施設の基本設計について (4) 西東京市ワイワイプラザの事業報告について
会議資料の名称	1 西東京市子ども福祉審議会委員構成(20年5月15日現在) 2 子どもの権利に関する意識アンケート調査関連資料 3 西東京市子ども福祉審議会予定案件【平成20年度】 4 北原学童クラブ 委託の評価について〔報告〕 5 下保谷児童館・福祉会館及び(仮称)ひばりが丘団地内公益施設の基本設計関連資料 6 西東京市ワイワイプラザ事業報告書
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
○ 発言者名 発言内容 新委員の委嘱 委員自己紹介 職員紹介 ○ 森田会長 子ども福祉審議会は、私は3期目でエンゼルプランの前から関わっています。西東京市の子どもの福祉全体を話し合っています。子どもたちが健やかにこの地域の中で育ってくれるように願って作られた審議会です。そういう意味では、西東京市では西東京市ルールのようなものを作ってこれたと思う。去年は全9回開催されました。西東京市の子どもの施策につ	

いては、基本はこの審議会で議論をしてきました。そういう意味では、皆さん、いろいろ役職をお持ちの中で、大変なご苦勞をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、審議としてひとつ、また、沢山の報告事項もあり、平成20年度に審議会として何をしなくてはいけないかについて確認しながらやっていきたいと思います。

最初に、審議として、子どもの権利に関する条例の策定について議論していきたい。この子どもの権利に関する条例の策定については、西東京市子育て・子育てワイワイプランの中で定められているもので、昨年度から議論を始め、今は、条例策定委員会が立ち上がっています。委員会の報告を受けながら、それを審議、承認していくのが役割。審議会からは、猪原先生、梅村先生、神山先生、古川先生が委員会のほうに出てもらっている。現段階で、どういう状態なのか報告を受けて審議をしていきたい。

それでは事務局のほうから、現段階の報告をお願いいたします。

○ 事務局

昨年の中間答申をふまえ、20年1月から策定委員会を立ち上げた。委員会はこれまで3回開催したところ。

- アンケート調査関係資料説明 -

策定委員会で条例策定に必要な質問項目をまとめる作業をしている。またアンケート調査を実施する委託業者も決定した。6月には実際のアンケート調査の作業に入る。

本日は、このアンケートの設問項目等について、ご指摘いただきたい。

○ 森田会長

策定委員会は、市民公募の方が2名入られて、委員会が組織されました。私もオブザーバーとして、できる限り参加をしています。まず、議論を始められているのが、オンブズパーソンについてです。なぜかと言うと、やはり条例の本文を考えるには、子どもと大人の実態調査がないとデータとして西東京市の実態が浮き彫りにされないのでアンケート調査を行うが、その調査結果がでてくるまでの間、むしろオンブズパーソンについての議論をするほうが有効であろうとの判断からそうしてきました。オンブズパーソンについての議論をしながら、平行して部会を作って、このアンケート調査部会と、地域に出かけてヒアリングをする部会と分かれて進めていくところです。今回、アンケート調査部会の方で、アンケートの案が出てきた。今日の午前中もアンケート調査部会があって、その中では、子ども用、おとな用のアンケート用紙のほかに、16・17歳用のアンケート用紙を別に用意をするということになりました。中身については、作業部会、委員会、庁内でも議論をし、以前西東京市で実施したアンケート項目を入れたり、比較できるように他の自治体で行われたアンケート項目を入れたりしてきています。

○ 小平児童相談所長

(1)調査対象を小学校5年生と中学校2年生を選んだ理由は？

(2)家に持ち帰って書くようになっているが、親の目を意識して書くことについてはどう議論されたか？

(3)無記名の記入だか、S O Sの発信や重篤な回答があった場合の対応は？

○ 森田会長

(1)調査対象を小学校5年生と中学校2年生を選んだ理由は、以前のエンゼルプランでの調査対象が小学校5年生と中学校2年生だった。また、限られた時間であること、調査用紙を何種類もつくる予算的な問題もふまえ、このような対象になっている。また、子どもの権利研究所での全国的な調査でもこのような対象になっているので、全国との比較ができる。以前のエンゼルプランでの調査でも16歳の調査をやっているのので、今回もやります。

(2)家で書くということのバイアスもあるが、実は、学校で書いてもバイアスがかかりま

す。どこでやっても調査はバイアスがかかるんですね。そのことを承知のうえでアンケートをとらざるをえない。回収率について言えば、学校を通じて配布していただくと、回収の数が集まりやすい。そういったことからこの方法をとっている。

(3)子どものSOSが発せられた場合は、入力する人なりが、それを見つけ次第、すぐこちらへ連絡するようにお願いしている。そして、そういうことが書かれているということ、学校なり、全体に広報し、意識して考えていただく。そういう方法しかアンケートの場合はとれない。それを書くということは、それが事実であるかどうか分かりませんが、それを伝えほしいという子どもたちのメッセージではありますので、それが書かれていることを見つけ次第、学校なりにお知らせしていくことは必ずします。前のワイワイプランのときもありましたし、自由記述が大変多かった。子ども調査は自由記述が多いんですけども、ここに大人が考えなくてはならないこと、大きな問題が多く書かれてあった。

○ 松島委員

子ども用アンケートのルビのふりがなが統一されていないので、統一してほしい。

○ 阿委員

文字が小さい、文字が多いところが気になります。

○ 清水委員

調査項目が多い。小学5年生に理解できるのか疑問。

○ 森田会長

条例策定委員会に伝える。前回の調査のときは、結構、子どもたちはきちんと回答してくれていましたので、できるかなという感じはします。

○ 神山委員

「家で書く」というのは、親ごさんと子どもがこれをもとに、こんなことを考えていたんだ、という会話をするきっかけになるといいと思う。

○ 森田会長

それではアンケートについては、何かありましたらお知らせください。委員会の様子を教えてください。

○ 猪原委員

実際に条例を文章化するときのスタンス、核をどうするか非常に興味を持っていること。主体を誰において、どの程度具体的に書くのか、書き方も条例の性格に影響を与えるので、そのへんをどうするか興味を持っている。

○ 森田委員

市民の委員の方も熱心ですね。条例策定委員会は次回5月20日にあるので、意見があるかたは事務局をお願いしたい。また、委員会からは、報告をいただいて、審議が必要なときは審議していくことにしたいと思います。

では、次の議題に移ります。

～資料「平成20年度子ども福祉審議会予定案件」より～
各課から報告をお願いします。

○ 子育て支援課長

20年度の後半には、後期計画について諮問させてもらう。国から計画について、調査や調

査に変わるものが必要なのか、国から夏に示されるので、それ以降になる予定。

○ 保育課長

入所の選考基準を策定しているが、前回は18年度、その前は16年度と2年に一度やっている。21年度の入所に向けて基準の見直しをやっていききたい。具体的には調整指数について検討したい。前回は、勤務実績の加算をやっていたが、今の時代、転職が多いのでそれをやめたところ、ポイントが同じ世帯が増えた。このため、前年度の住民税を考慮したりするケースがでてきた。世帯の実態を考慮して欲しいという要望も多い。他市の基準等も参考としながら提案させていただきたいと考えている。

今まで2回程度の審議で終わっている。今回も大幅な変更は考えていないので、2回程度の審議をお願いし、10月上旬には決めたいと考えています。

○ 森田委員

今年は保育園の民間委託は？

○ 保育課長

今年はございません。来年度4月から下保谷保育園を民間委託する予定。

ただし、民間委託の業者選定は今年度実施する予定です。

○ 児童青少年課長

本日、北原学童クラブの委託の評価について報告させていただき、第4四半期には児童館再編成について審議をお願いしたい。

○ 子ども家庭支援センター長

継続実施の事業と新規実施の事業があります。例えば、ショートステイ事業とか、こんにちは赤ちゃん事業、若いお母さん向け支援の事業がたちあがったこと、広場が2つになったこともあり、このあたりの報告があります。

○ 森田会長

児童館の再編成の議論の中で、オンブズパーソンについての議論もある。「地域にある児童館」は、日常の中で、地域の子どもの声を聞き取り、問題を解決する最前線に立っていると認識しています。そのあたり、条例策定の委員会での議論もいろいろと出てくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

保育料について、所得税と住民税の課税割合が変化していく中での混乱はなかったか？

○ 保育課長

特に大きな混乱はなかった。

○ 森田会長

次に、北原学童クラブ委託の評価についてお願いします。

○ 児童青少年課長

～北原学童クラブ委託の評価について資料説明～

学童クラブガイドライン自己点検結果から、154点満点中146点であった。

学童クラブ委託先からは、次年度は満点を目指す旨の話をいただいているところ。

○ 吉瀬委員

保護者に事前にアンケートをとっているが、25名中、15名だが？

- 児童青少年課
アンケートに協力いただけなかった 10 名のうち、3 名は兄弟であったので、残りは 7 名となる。意見のある方には、提出いただけたものと考えている。
- 森田会長
この調査項目、自己点検表はどうやって作ったのか？
- 児童青少年課長
東京都のガイドラインによるものです。
- 森田会長
他の施設の評価はしないのか？
- 児童青少年課長
他の施設についても評価を実施をしていかななくてはいけないと考えている。
- 森田会長
次に、下保谷児童館・福祉会館及び（仮称）ひばりが丘団地内公益施設の基本設計についてお願いします。
- 児童青少年課長
～下保谷児童館・福祉会館及び（仮称）ひばりが丘団地内公益施設の基本設計について資料説明～
- 森田会長
説明会はどうでしたか？
- 児童青少年課長
ひばりが丘の説明会は、障害者施設、学童クラブの保護者等の参加があり、運動場と遊び場、園庭の間の柵の高さはどのくらいか？定員の基準は？樹木は移植できないか？などの質問があった。
下保谷の説明会は 10 名参加。近隣が住宅のため近隣の住宅の方が多かった。壁が見通せるようにしてほしいというご意見があった。開館時間は午後 9 時までであるが、午後 8 時までにしてほしいという意見、周囲が住宅地で暗いので明るくしてほしいという意見があった。
- 森田会長
ご意見はありますか？
- 清水委員
工事の前に騒音等、近隣の住宅に説明を十分にしたほうがよいと思う。
- 森田会長
設計の段階で、子どもの意見はどのように取り入れるのか？設計は市の職員がやるのか？
- 児童青少年課長
通っている子どもから意見を聞き、バンドの練習をしたい等の意見が出たので、取り入れ

た。

○ 保育課長

園長、副園長、保育士、栄養士、調理作業者等で、建設検討委員会を設け、動線等について意見を出しあっている。

○ 松島委員

パブリックコメントについては何件くらい？

○ 児童青少年課長

児童館・学童クラブに関してはひばりが丘が 19 件、下保谷は 11 件。

○ 森田会長

ダンスなどはどこでやると想定しているのか？

○ 児童青少年課長

ひばりが丘は体育室、下保谷はステージなど。具体的には、これから検討する。

○ 森田会長

壁面に割れない鏡だけつけてもらえればどこでもできると思う。例えば、下保谷などでは、トレーニング室に鏡だけつけておいてもらえれば、ダンスはできます。西東京市の子どもたちはダンスが盛んなので、ぜひ検討してもらいたい。児童館なので子どもたちが居心地がいいようにしてほしいと思います。細かい使い勝手については、雨の日などに集まっている子どもたちなどに是非意見を聞いて検討してもらいたい。

○ 森田会長

最後に、ワイワイプラザの事業報告にいきます。

○ 子育て支援課長

～資料西東京市ワイワイプラザ事業報告書説明～

民間との共同事業は、西東京としてパイロット事業であったため、当初から明確な方向性を出すのは難しい面があったが、利用者からの満足度は高かった。

これを受けて、次の事業展開についてどのようなことができるか検討させていただきたいと考えています。また、この 2 月に市民活動団体との協働の基本方針が策定されているので、この方針をもとに市民参加をつなげていきたいと考えています。

○ 森田会長

保育園の仮園舎が 1 年間あくので、西東京市に不足していること、問題点を実践型で探ってみようという事業という位置づけでやってみた。研究者、専門家、企業、市民の方々の参加をいただいた。アンケート調査ではなかなか上がってこない利用者の声を聞き取るというのは大切なことで、そういう人たちと会って、意見を丁寧に聞いていくと、西東京市のどこに課題があるのか、欠けているものがあるのか、ないのかがわかってくる。ワイワイプラザは、市立の看板をかがけていたが、市立と思って利用した人はほとんどいなかったのではないかな。わりと元気だけれども、あまり人づき合いが上手でない人、子育てが上手ではない人が、家庭の中に引きこもってしまうと問題が起きることがある。この人たちをどこかに引っ張り出してきて、みんなで子育ての知恵を出し合ったり、力を出し合ったりする場を、いろんな形でつくっていかなくてはいいのかなと考えたわけです。市民のいろんな方たちが声掛けをしたり、いろんなものを持ち寄ったり、ボランティアとしてかかわったりする。誰

かマネジメントする人がいて、あまり豪華でなくても、ある程度ゆったりできる場所があって、集団をマネジメントしてくれれば、かなり健康状態が上がるんだなと感じました。西東京市はこれまで公的に施設を充実させてきたが、もうちょっと市民活動を入れ込んでいけるような仕掛けが必要なのではないか。子育てのところで、そういうものがつまってしまうと、すぐに保育園という話になってしまう。市が抱え込まなくてもいい人たちを、地域でゆるやかに支えていける仕組みや空間が求められていると思われた。ワイワイプラザは、1年間限定で、場所も不便な所だったが、全国からお手伝いをしたいという人が大勢いた。子育て中の親に、自分の体験を語ったり、自分の培ってきた技術を伝えたい、ボランティアをやりたいという人が多かった。これを公がやってしまうと、いろいろな制約がでてきて、なかなかうまくいかなかったりする。市民が自分たちでやる分には、お互いの了解のもとでやれるので問題ない。もうちょっと、地域のグループの方とか、ボランティアの人たちとか、そういう人たちが活躍できる場が西東京市の中にできるといいと思う。異世代間の交流とか、もっと自由な形で、なごやかに、そういうものが進んでいくのかなと感じました。私にとってもとてもいい体験でした。西東京市にとっても、行政がカチッとやる事業もとても大事なことです。それ以外にそういう市民の方とか、当事者の人たちが、活躍できるような場所があってもよいのではないかなと感じました。

○ 清水委員

今後、この建物はどうなるのか？

○ 保育課長

現在は仮設園舎として利用しています。リース期間は来年度の4月一杯までです。

今後、庁内PTを立ち上げて利用について検討していきたい。

○ 阿委員

オープンになっているのが非常に大事なことです。立ち話をしながら相談にのったりというのがとても大事ですね。

○ 森田会長

「寄り添い方相談」と言っていたんですが、あんまり「相談」と構えないで、普通にご飯を食べながら、一緒に遊んだりしながら、そこで、そんなに深刻ではないけれどもちょっと聞きづらい相談などはずいぶんしていましたね。子育て中の家庭の添え木みたいな、そんなところがあれば人も集まってくると思う。近くに基幹型保育園がありましたが、保育園とは少し違う門の低さみたいなものはあった。それは参加された市民の方々などの柔らかさが支えたと思っています。

○ 阿委員

小金井では、アパートの1階を借り切って、お年寄りと子どもと一緒にいて過ごせる空間があって、とてもいいなと思っています。

○ 森田会長

公だけでは、限界が発生するので、庁内PTもできるようなので、いい建物ですので、ぜひ西東京市で活用してもらいたい。

他に何かありますか？

○ 阿委員

ひばりが丘は複合型施設なので、児童館、学童クラブ、保育園の関わり方をぜひ検討してもらいたい。特に、管理について問題を出し合うだけではいい方向にならないので、建物が

できる前に検討していただきたい。

○ 森田委員

児童館、学童クラブ、保育園を総合化するのは大変なことだと思っている。中身をつくる議論は是非やっていただきたい。

次回は 7 月位でしょうか。日程については、あらためて連絡があるようです。これで終わります。

以上にて終了